

## 塩見岳～仙丈岳南アルプス山行報告(7月～13日)

○小俣・大木チーム (二軒小屋～蝙蝠岳～塩見岳～荒川岳～千枚岳～樫島ロッジ)

○土屋・広木・寺崎チーム (二軒小屋～蝙蝠岳～塩見岳～熊の平～仙丈岳～北沢峠)

### ◇1日目(7月9日木曜日)

広木家で小俣チームと合流。7時半出発、湾岸自動車道から新東名、新静岡ICで降りる。県道を直走り、途中、井川五郎ダム(中空重力式ダムと言って、珍しいダムなのだそうな)脇を通る。有名ならしいトロッコ列車がある井川駅近くも通り抜け、ひたすら走り続ける。

1日目の目的地「二軒小屋ロッジ」に行くためには、畑薙第一ダム駐車場で車を止め、ロッジの送迎バスに乗り換え、我々の到着を待って「南アルプス高山植物保護ボランティアネットワーク」の方々(全国から集まって南アルプスの高山職分等の保護をしているとか、福島の方も参加)11名も乗り込んで15:00出発。彼らは、山開きに合わせて作業をするとか、という話。「ポールや網…。」との説明はよくわからなかったが、仙丈ヶ岳下山中、高山植物を守るための杭打ちや網掛けがしてあり、このことかと納得した。

舗装道路から砂利道にかわった。赤石温泉「白樺荘」で食べたざるそばが、胃の蠕動運動しなくても十分消化できるぐらいのがたごと道で、随所に崩落したガレの山があった。雲に隠れて見えない頂上から崩れたものもあるとか、痛々しかった。

ボランティアの方々(土屋さん)は東海フォレストの樫島事務所で降りられ、送迎バスは我々5人だけになった。雨に濡れた樹木は美しく、運転手さんが要所要所で草花の説明をしてくださった。途中、宿泊予定の3名の釣り客を拾っていく。雨の中の激流での釣りで「遭難しなくてよかった」とのこと。

16:30ようやく、目的地「二軒小屋ロッジ」に到着。ロッジのすぐ下は大井川の本流とか。雨の中、シェフが出迎えてくださり、ロッジの温かさを感じた。ロッジはまだ新しく、我々は2段ベットのある6人部屋に泊まったが、ツインルームもあるらしい。

夕食は小俣さんお勧めのコース。シェフの説明を聞き、舌鼓。ちなみに、食前酒は自家製「山ブドウの果実酒」、野菜のオードブル、パエリア、ピZZァ、イワナの燻製、スープ、デザート(シャーベット)はどれも地元の食材のようで、素朴でしかも洗練された味だった。鹿肉のカルパッチョも美味。風呂に入り、ぐっすり就寝。

### ◇2日目(7月10日金曜日)

朝食用のおにぎりを食べ、5時前に塩見岳を目指して出発。アップダウンを繰り返し、かなりハード。途中途中の、自然のままに造園した日本庭園のような苔生した岩や樹木が疲れを軽減させてくれる。徳右衛門岳を通過する水の確保は大変。「水」とだけ書いてあった所から土屋さんがみんなのペットボトルを持って出掛けたもののなかなか帰ってこない。小俣さんが見に行き、やっと合流。ペットボトルを入れた袋が破れ大変だったらしい。水場とは言うものの勘を頼りに20分もかけて降りていく大変な作業だ。それにこれまで誰にも出会わない、マイナーな山のようなのだ。

富士山、塩見岳が見える所でテントを張る。気温はかなり下がっている。テントの中の食事の温かさが嬉しい。それにしても広木さんの食材の多さ。歩いた疲れが吹っ飛ぶ。

早めに就寝。

#### ◇3日目(7月11日土曜日)

起床、食事を済ませ塩見岳目指して6時前に出発。小俣チームは塩見岳を超え次の山にアタック予定。土屋チームは塩見岳をピストンするので、ザックを置いての出発。空身のなんと楽なこと。塩見岳に10:00登頂。小俣チームの無事を祈りに別れを告げ、ザックを置いた所に引き返す、熊ノ平キャンプ場を目指す。

2日目は山がどんどん近づいてくる感じだったが、今日3日目は、山は全く動かず、我々の到着を待っているかのようだった。16:00安部荒倉岳登頂。とても眺めがよい。

熊の平小屋は山開き前だったが、快く泊めてくださった。先客が一人、その後もう一人増えた。2階のテラスで食事の準備、かなり寒い。水もふんだんに流れており、2日目の水の確保がうそのようだ。手を切るような水に、求めたビールを冷やす。テラスは寒いが食事はリッチ。広木さん持参の食材でちょっとパーティ気分。他の二人にはちょっと申し訳ないような気持ち。小屋の中は暖かかった。小屋の御主人がストーブの温もりが2階に回るようにして下さったらしい。前日よりぐっすり眠れた。

土屋さんが水場のことを聞くが、あまりいい水はなさそう。「池の水がある」と言うが、聞く人によって、汚れているとか大丈夫だとか…。熊の通り道にもなっているらしい。

#### ◇4日目(7月12日日曜日)

熊の平小屋5時前出発。8時前に三峰岳登頂。ほとんど人に出会わない山行だが、途中両股小屋分岐付近で外国人二人に会う。マイナーなルートと聞いたが、さすが日本語も上手。両股小屋に降りるとか、その長い脚でどんどん行ってしまった。

池は思ったよりきれいで、近くの水場も水がふんだん。土屋さんに汲んでもらって、すぐに出発。土屋さんはいろんな人から情報を得ていたが、必ずしも同じ情報ではない。その時その時の情報が駆け回っている頭の中を精査して行動に移す、さすがと思った。

池の周りは森の中のオアシスといった感じで、熊が通るのもうなずける。

仙丈ヶ岳を目指して出発。途中ライチョウに出会う。果樹園のような斜面があったり、もうすぐお花畑になりそうな斜面もあったり。しかし、向きが変わると、木々が薙ぎ倒され、樹木の墓場のような光景も見られた。

#### ◇5日目(7月13日月曜日)

朝から霧雨のような天候、肌寒い。最終の食料をお腹に入れて出発。ハイマツ群は朝露に濡れ、ウエアは雨に降られたかのように濡れた。アップダウンの稜線、岩を伝いながらのトラバース…。強風がウエアに付いた滴を落としてくれたかと思うと、また、水を一杯含んだハイマツでびしょびしょになってしまう。冷たくなった手を土屋さんの軍手が助けてくれた。

大仙丈ヶ岳を経て仙丈ヶ岳に8:00登頂。強風と霧雨の歓迎で、登頂の喜びに浸っている間はない。さすがに何名かの登山者。証拠写真を撮って早々に下山。あまりの寒さに、早く下山したい一心で仙丈小屋もパス。

途中、「南アルプス高山植物保護ボランティアネットワーク」の方々の仕事を見つける。杭に縄を

し、高山植物の芽生える箇所には網が掛けられていた。

あれだけ水を気にしたのににもかかわらず、此方側では此処彼処に雪解け水が流れている。

9:00 馬ノ背ヒュッテでバスの時刻を聞くが、いい時間はなかった。

11:20 北沢峠に降りる。長野県と山梨県との境目を表す看板がおもしろい。「こぼれび荘」前で 13:30 出発のバスを待つ。その間、伊那市の御当地アイドルが登山客等々と歌ったり踊ったり…。そこで飲んだコーヒー等のおいしかったこと。広河原からバスで芦安に出る。芦安には宿泊施設が一杯。お風呂に入り 4 日間の汗を流す。登山客は早く下山しているらしく、店も 4 時には閉まってしまう。帰りの相談。タクシーで甲府までと決まったら、幸いにももう一人登山者の乗客が現われた。

もう一人の乗客は甲府で育った人、女性の運転手さん、甲府までの広木さんとの会話が楽しかった。料金も安くして貰え、千葉とは違う人の温もりも感じる事ができた。

6:36 あずさで帰路に着く。(文責：寺崎)

